

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立津山西中学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
(目指す生徒像) 根気強く学び続ける生徒 他者の人格を認め、支え合う生徒 あいさつができ、すすんで清掃ができる生徒	(目指す教師像) 授業で勝負できる教師 生徒の良さを発見し、生徒をほめて伸ばす教師 学校運営に共同参画できる教師 生徒、保護者から信頼される教師

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 (全国) 国語・数学について基礎・活用とも全国平均を下回っている。 国語の「辞書の活用」「表現の技法の理解」については、全国平均とほぼ同じである。 国語の「考えをまとめて、文章を書く」ことが全国平均と比べてかなり低い。無回答率も大きく上回っている。 数学A・Bの全ての設問の正答率が全国平均を下回っている。「確率」については、比較的できている生徒が多い。 数学の基礎用語が理解、習得できていないため問題の意味が理解できていないようである。 「関数」「証明」についての問題の正答率が全国平均に比べ大きく下回っている。 「証明」については、無回答率がかなり高く、取り組みもうとする意欲が乏しい傾向にある。 国語Aでは、「漢字の書き取り」「招待」の正答率が県平均を上回っている。(本校69.4%、岡山県59.0%) 国語Bでは、「根拠を明確にし、自分の考えを書く」について正答率が低く、無回答率も高い。(本校32.4%、岡山県43.9%) 数学Aでは、「連立二元一次方程式を解く」についての正答率が低く、県との差が最も大きい。(本校42.3%、岡山県64.1%) 数学Bでは、「式を変形し、証明する」についての正答率が低く、無回答率も高い。(本校32.2%、岡山県58.7%) (県) 国語・社会・数学・理科の全ての教科について基礎・活用ともに県平均を下回っている。 特に活用については、基礎に比べ、どの教科も県平均との差が大きい。 国語が県平均をかなり下回っている。中でも「言語についての知識・理解・技能」が低い。 数学の基礎については、比較的正確率が高く、県平均との差が小さい。 国語の「漢字」、数学の「四則計算」、社会の「歴史」については、正答率が県平均を上回っている問題がある。 全ての教科で文章で答える問題については、無回答率が多い。	【学習状況調査の結果】 学校へ行くのが楽しいと感じている生徒が県・全国に比べてかなり多い。 将来の夢や希望を持っている生徒は、県・全国に比べて多いが、「ものごとを最後までやりとげてうれしかった経験がある」「失敗を恐れず挑戦する」と答えた生徒が少なく、目標に向かい、努力していくことが苦手な生徒が多いことがうかがえる。 「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合は、1年生では県に比べて低いが、3年生では全国に比べて高い。 テレビの視聴時間は、1年生では、県に比べて少なく、1時間～2時間の生徒が最も多い。3年生では、ほとんど観ないと言う生徒の割合が全国に比べて多いが、4時間以上観る生徒の割合も多く、二極化がみられる。 家庭学習については、1年生は、1時間～2時間が最も多く、2時間～3時間とともに県平均を上回っており、全くしない生徒の割合も少ない。ある程度の学習習慣は、定着しているようである。3年生は、全くしない生徒の割合が県・全国に比べて多いが、1～3時間、3時間以上の生徒の割合も県に比べて多く、二極化がみられる。全国と比較すると家庭学習の時間はかなり少ない。 読書の時間は、全くしない生徒が県・全国の割合を大きく上回っており、全体的に読書時間が少なく、図書室等の利用も少ない。読書時間と学力に相関が見られる。 あいさつについては、昨年度の本校と比べるとやや低くなっているものの、県平均を大きく上回っている。

成果と課題	課題に対応した改善方法
【成果】 国語の「漢字を書く」については、全国平均を上回っており、1日1ページの漢字練習や週1回の漢字テストの取り組みの効果があつたと考えられる。 表現技法に関しては、詩・短歌・俳句等の授業の中で、繰り返し学習しているため多数の生徒が身につけている。 数学の計算については、比較的正確率が高く、授業内や朝学習等での反復練習の成果が見られた。 テレビの視聴時間やゲームをする時間が県や全国に比べ短い。小中連携し、中学校の定期テストに合わせ、ノーマディア週間に取り組んでいる効果があつたと考えられる。 【課題】 テストやアンケート結果から自分の考えをまとめて、文章で書き表すことを苦手としている生徒が多い。また、教科にかかわらず、ある程度の長い文章で出される問題には抵抗感を持っており、取り組む前に諦めてしまう状況が見られる。読書に親しむ習慣を形成したり、日頃から文章に触れさせ、まずは、抵抗感をなくすような取り組みが必要である。 学習意欲を高め、粘り強く学習していく力を育てよう教師の授業改善や家庭学習の出し方の工夫が必要である。	1・2学年では、従来朝学習に充てていた時間を本年度より年間を通して読書タイムとした。 学級文庫や図書館の利用を司書教諭や生徒会活動とタイアップし推進していく。 教科の学習に限らず、行事等の反省や感想、意見を書く機会を増やし、文章を書くことに抵抗感をなくしていく。 また、それらを掲示し、お互いに見せ合うことで表現力を身につける一助とする。 家庭学習の時間は、全国・県と比べて差がなく、全くしない割合は低いが、正答率には反映されていない。 本年度「家庭学習の手引き」を作成し、生徒・保護者向けに配付した。さらに質を高め、十分に活用していきたい。 本年度より全校一斉に協同学習の手法を取り入れた授業を行っている。 学び合いを通して個々の学力の向上とともに友だち同士のつながりを深め、自己を表現したり、状況に応じた声かけができるようコミュニケーション能力を身につけさせたい。 生徒が興味関心を持ち、意欲的に学べるよう教師全員が年1回以上公開授業を実施し、授業力を向上させる。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
生徒への授業・家庭学習の状況アンケート(6月・12月) 学力定着状況たしかめテストの実施(2学期以降) 学校自己評価アンケートの実施(11月) ノーマディア週間の取り組み・集計(テスト週間にあわせ学期2回ずつ取り組み・学期に1回集計)	全ての教科の基礎問題の正答率を県平均に近づける。 家庭学習を全くしない生徒をゼロにする。(現在1年2.2%、3年8.1%) 期間中ノーマディアに取り組む生徒を80%以上にする。(現在66%) 全く読書をしない生徒を10%以下にする。(現在1年21.5%)